

5. IFRS 財団アジア・オセアニア オフィス ディレクターの挨拶

IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス
ディレクター

たけむら みつひろ
竹村 光広



1 はじめに

このたび、IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスのディレクターに就任しました竹村光広と申します。このような大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。

就任のあいさつにあたりまして、まずは、私の簡単な経歴からご紹介させていただければと思います。私は慶応義塾大学在学中に公認会計士試験二次試験を合格し、卒業後、オーストラリアのメルボルンにて現地監査法人の研修生として2年間勤務しました。その後、日本に帰国し、大手監査法人に就職、主に外資系企業および日系多国籍企業の監査に従事しました。そして、系列の税理士法人に転籍し、つい最近まで税務業務に従事していました。会計基準開発との関わりは、平成20年に企業会計基準委員会(ASBJ)から国際会計基準審議会(IASB)への派遣研究員募集の記事を新聞で見たところから始まります。監査法人や税理士法人に勤務していた時には、誰か知らない人が作った会計基準や税法を勉強して、それをクライアントにアドバイスしていましたが、IASBに行けば世界の会計基準の開発に携われるという広告を見て、その仕事に大きな魅力を感じ、応募せずにはいられませんでした。それ以来、IASB本部のあるロンドンに移住し、IASBで2年4か月の任期を全うし、そのまま現地の会計事務所

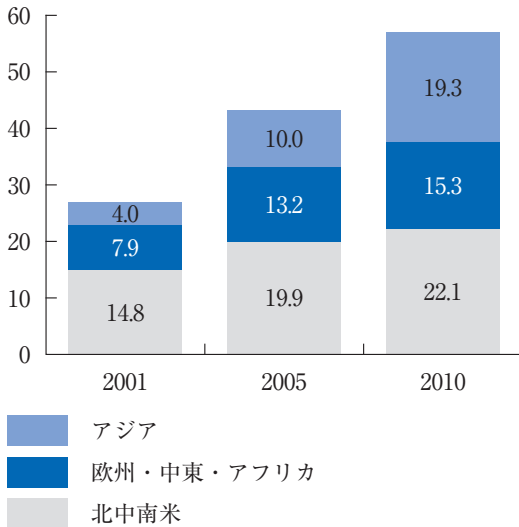
に居座り続けていましたが、このたび、IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスのディレクターに就任するために日本に帰ってまいりました。

2 IFRS 財団アジア・オセアニア オフィスについて

IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスは、IASBの母体であるIFRS財団が初めて英国以外に設立する事務所です。アジア・オセアニア地域は、過去10年間に急激な発展を遂げ、世界経済を牽引する役目を果たしてきました。その結果、世界の経済は、米国・日本および欧州の三極体制から、南米やアフリカ地域の経済圏も含めて、多極化した経済体制へと移行しています。たとえば、国際取引所連合の資料によると、2011年の世界の10大株式市場のうち4市場がアジア・オセアニア地域にあり、アジア・オセアニア地域の国内市場の時価総額は、過去10年間に4倍に増大しています。さらに、アジア・オセアニア地域のほとんどの主要経済圏が、単一の国際財務報告言語としてIFRSを採用する、または、採用の過程にあります。このような観点から、IFRS財団にとってアジア・オセアニア地域は戦略的に大変重要な地域になりました。IFRS財団の評議員会は、アジア・オセアニア地域の各国がIFRSへのコミットメントを高めているように、IFRS財団もアジア・オセアニア地域に対する長期的なコミット

メントを示す必要があると考え、新しい事務所をこの地域に設置することを決めました。

国内市場の時価総額（10 億米ドル）



出典：2011 年度国際取引所連合「Time Series」

IFRS 財団のアジア・オセアニアオフィスは主に次の3つの機能を果たす予定です。まず、アジア・オセアニアオフィスは、IFRS 財団およびIASBの活動に関心があるか、またはその影響を受ける利害関係者に、地域内の専用連絡先を提供します。IFRS 財団の職員を当地域にとってより便利な時間帯に配置することで、緊急の問い合わせにもよりタイムリーな対応ができるようにします。アジア・オセアニアオフィスの職員に連絡いただくことで、その問い合わせに職員が直接回答するか、または、ロンドン本部の適切な職員に問い合わせを行うことが可能になります。

次に、アジア・オセアニアオフィスは、将来、地域の重要なリサーチハブへと発展していくことが期待されています。各国の基準設定主体からの出向者等が、アジア・オセアニアオフィスを拠点として、IASBの指導の下に当地

域特有の問題を調査します。さらに、出向者またはオフィス職員は、ロンドン本部で現在進行中のプロジェクトの効果分析に関する証拠を地域で収集したり、主要基準の適用後レビューに当該地域で貢献することもできます。

さらに、アジア・オセアニアオフィスは、地域全体を通じた協力をより深めるためのプラットフォームとして利用されます。IFRSが世界中で成功するには、各国のコミットメントとIFRS設定への積極的な貢献が不可欠です。アジア・オセアニアオフィスは、この目的を達成するため、具体的には、地域的アウトリーチ活動やその他のイニシアティブの主要拠点としての役割を果たします。

最後に、これらの役割を果たすうえで、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ(AOSSG)との協力関係の重要性を付言させていただきます。AOSSGは、オーストラリア、中国、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、香港、インドなどを含む、アジア・オセアニア地域の各国基準設定主体の集まりです。これらの基準設定主体は、過去からIASBの基準設定にさまざまな側面で協力してきました。このたび設立されたIFRS財団のアジア・オセアニアオフィスが、テクニカル活動を行う上でも、AOSSGとの緊密な連携が期待されています。具体的には、AOSSGで認識された地域特



有の問題に関するリサーチ活動を IFRS 財団のアジア・オセアニアオフィスに配置されたスタッフを中心に実施することが想定されています。

AOSSG 加盟国／地域

オーストラリア	日本	パキスタン
ブルネイ	カザフスタン	フィリピン
カンボジア	韓国	サウジアラビア
中国	マカオ	シンガポール
ドバイ	マレーシア	スリランカ
香港	モンゴル	タイ
インド	ネパール	ウズベキスタン
インドネシア	ニュージーランド	ベトナム
イラク		

3 今後の展望

アジア・オセアニアオフィスは今年の10月半ばに東京大手町に設置されました。当初の常勤スタッフは、私とアシスタントの合計2名です。また、IASBの鸞地理事が非常勤として勤務されます。このアジア・オセアニアオフィスは、将来的には、地域の重要なリサーチハブとなることが期待されていますので、地域特有の論点を認識し、その論点の研究に必要な人材を各国の基準設定主体から出向などの方法で配置させることを計画しています。そのため、事務所のスペースも追加でスタッフが8人程度収容できるよう設計されています。

また、アジア・オセアニアオフィスは地域のアウトリーチやその他のイニシアティブの拠点

となることが期待されています。そのため、アジア・オセアニアオフィスは、約20名の参加者が着席できる円卓、傍聴者席、通訳ブースおよび、簡単にロンドンのIASB本部に直接つながるビデオ会議システムを備えた会議室が常設されています。

このように、IFRS財団アジア・オセアニアオフィスは、日本の関係者の皆様のご尽力もあり、最先端の設備を備えた立派なオフィスとして開業を迎えることができました。まずは、この場を借りまして、IFRS財団アジア・オセアニアオフィスの設立にご尽力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。これら関係者の皆様の期待に背かないよう、また、単一で高品質な会計基準を今後とも世界にますます普及させられるよう、さらにこのアジア・オセアニアオフィスを地域の皆様が有効活用できるよう努力していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

